

## 第206回 杏林大学医学部倫理委員会議事録

日 時： 平成29年7月24日（月） 13:00～15:05

場 所： 本部棟11階南側会議室

構 成 員 数： 11名

出 席 者： 古瀬純司 岩下光利 神谷 茂 苅田香苗 木下千鶴 大川昌利  
坂本ロビン 島津敏雄 萩原玉味

有 識 者 松村讓兒（解剖学） 長瀬美樹（解剖学） 柴原純二（病理学）  
北村 修（法医学）

オブザーバー 跡見 裕 渡邊 卓

欠 席 者： 大瀧純一 岩隈道洋

（出席委員数/全委員数：9/11名）

- A. 議題
1. 審査 8件
  2. 報告 38件
  3. その他

- B. 資料
1. 研究倫理審査申請書
  2. 研究倫理審査報告書
  3. 解剖体を用いた研究についての考え方実施に関するガイドライン等

倫理委員会に先立ち委員長は、本日の審査案件8件のうち2件が解剖体を用いる研究のため、委員会規程第6条に基づき、有識者として解剖学 松村讓兒教授、長瀬美樹教授、病理学 柴原純二教授、法医学 北村修教授の4名の先生方に参加を依頼し、本日委員会に出席していただき当該審査について意見を伺う旨説明した。

### C. 議事の経過要領

古瀬倫理委員長が議長となり、医学部倫理委員会規程に基づく充足数を満たしていること及び第4条第1項第2号（倫理学・法律学の専門家等、人文・社会科学の有識者）並びに第3号（一般の立場を代表する者）の委員の出席を確認し、本委員会が有効に成立する旨報告があった。前回の議事録の確認が行われ、異議なく承認された。

#### 1. 審査

(1) 申請番号 H29-005（再審査）研究責任者：山下 雄太郎 任期制助教（形成外科学）

説明者：大浦紀彦 教授（形成外科学）

「OASIS 細胞外マトリックスの上皮化促進効果についての検討」

本研究は迅速審査委員会から「本学のみ介入研究」であることから倫理委員会付議となった案件であり、初回審査を第205回倫理委員会（平成29年6月19日開催）に行い、変更の勧告

と判定された案件である。

委員長は、審議に先立ち研究責任者に当該研究の概要説明を求めた。概要説明を踏まえ倫理的観点及び科学的観点から討議を行った結果、**条件付承認**とする。

《条件》申請書類を修正し提出すること。委員長確認の後承認とする。

- ① 患者説明文書 9.この臨床研究への参加について 5 行目「参加を断ったとしても、診療を受けられなくなるなど」の表現を柔らかい表現に修正すること。  
例えば、「参加いただけない場合であったとしても通常通りの診療を」など。
- ② 患者説明文書の文中に数 mm と数ミリが混同している。mm に統一すること。
- ③ 患者説明文書 14.補償について 2 行目「重い副作用や健康被害」と記載されているが、そのような事態が殆どないのであれば「重い」ではなく「予測のつかない」等の表現へ修正すること。

(2) 申請番号 H29-036 (新規) 研究責任者：寺尾 安生 教授 (細胞生理学)

**「磁気刺激法を用いた神経疾患患者の中樞神経運動路の臨床検査法の開発」**

委員長は、審議に先立ち研究責任者に当該研究の概要説明を求めた。概要説明を踏まえ倫理的観点及び科学的観点から討議を行った結果、**条件付承認**とする。

《条件》申請書類を修正し提出すること。委員長確認の後承認とする。

- ① 研究計画書 (2) 研究の方法について内容を整理し分かりやすく修正すること。
- ② 研究計画書 (3) 研究の対象①選択基準に「中枢伝導検査を有するもの」「年齢を対照した健常者」とあるが、曖昧な表現で分かりにくい。具体的な疾患等を記載できるのであればその記載を、健常者の程度については具体的に記載すること。また、「被験者の募集」とあるが、「健常者」を追記すること。
- ③ 研究計画書 3.研究の実施場所については、窓口と検査の実施場所について分けて詳しく記載すること。
- ④ 患者説明文書 3.臨床研究の目的 8 行目に (2011 年臨床神経生理学会ガイドライン参照) とあるが、患者は参照できないので具体的に引用箇所を記載すること。
- ⑤ 患者説明文書 3.臨床研究の目的の下から 3 行目「患者さ」の脱字を訂正すること。また、下から 1 行目「次のような応急処置の準備」とあるが、具体的に何を指しているのか該当ページ等を記載するなど患者に分かるように追記すること。
- ⑥ 患者説明文書 4.研究の方法 2 頁目上から 2 行目「情報を伝わり」を「情報が伝わり」に訂正すること。
- ⑦ 患者説明文書 3 頁 3.磁気刺激をするにあたっての被験者が自覚する感覚について「ぴっくとした動き」「刺激にあわせて金槌で叩くような音」「異常ではありません」「かるく頭をたたかれた感じがします」などと記載されているが、患者が心配しないように具体的にわかりやすく記載内容を修正すること。
- ⑧ 患者説明文書 10 と 11 見出しがともに「個人情報の保護」となっている。確認のうえ、訂正すること。
- ⑨ 患者説明文書 10.個人情報の保護に、本来は、検査データは漏えいすることがないように

にし、研究成果からは個人の特定が不可能であるように留意すべきところを逆の表現「この研究に関する成果は、他の関係する方々に漏えいすることのないよう、検査データからの個人の特定が不可能であるよう留意します。」となっているので訂正すること。

(3) 申請番号 H29-037 (新規) 研究責任者：寺田 さとみ 任期制助教 (細胞生理学)

「**神経疾患における眼球運動・視線解析に関する研究**」

委員長は、審議に先立ち研究責任者に当該研究の概要説明を求めた。概要説明を踏まえ倫理的観点及び科学的観点から討議を行った結果、**変更の勧告 (修正した上で再審査)**とする。

《変更勧告》勧告に従い申請書類を修正し提出すること。委員長確認の後再審査とする。

- ① 申請書 10.目標症例数・研究対象等に、共同研究施設の症例数も記載すること。
- ② 研究計画書 3.研究の対象①適格基準に「研究の対象となる神経疾患」とあるが、記載が可能であれば具体的な疾患名の追記すること。
- ③ 研究計画書 6.研究の方法の記載内容が不十分である。具体的な研究方法を詳しく記載し、利用する機器「CCD カメラを用いたビデオ式アイトラッキングシステム」等の仕様書を添付すること。また「もらうこともある」「行うこともある」等の曖昧な表現は適さない。研究方法についての引用した論文も追記すること。
- ④ 患者説明文書 4.研究の方法 2) 他の検査 1 行目「簡便な認知機能検査を行うこともあります。」と表現が曖昧である。実施するのであれば「行う。」とし、この内容についても研究計画書の研究の方法へ追記すること。

(4) 申請番号 H29-038 (新規) 研究責任者：渡邊 格 任期制助教 (耳鼻咽喉科学)

説明者：宮本 真 臨床専攻医/大学院生 (耳鼻咽喉科)

「**献体の摘出喉頭・気管を用いた発声・呼吸・嚥下に関する検討**」

本研究は、解剖体を用いた研究である。委員長は、審議に先立ち研究責任者に当該研究の概要説明を求めた。概要説明を踏まえ倫理的観点及び科学的観点から討議を行った結果、**変更の勧告 (修正した上で再審査)**とする。

《変更勧告》勧告に従い申請書類を修正し提出すること。委員長確認の後再審査とする。

- ① 当該研究の目的が分からない。全体的に研究計画のブラッシュアップが必要である。
- ② 研究計画書 0.3.方法は具体的に記載すること。
- ③ 研究計画書 2.背景と研究計画の根拠に「行うことを目的としている。」「計測することも目的としている。」「測定することを目的としている。」「提供すること目的とする。」等と記載があり当該研究の目的が不明である。本来実施したい研究目的が何で、当該研究を実施することにより何が明らかになり、今後どのように繋がっていくのか、研究の背景として記載すること。「嚥下」に関しての記載もあるが、目的が異なっているので整理をして記載すること。2 行目「いろいろな研究が行われ」に対する文献を引用すること。ここで記載されている研究に用いる機器の仕様書を提出すること。「可能デイ」を「可能性」に訂正すること。

- ④ 研究計画書に新たに「研究の方法」として見出しをつけて、具体的な研究方法を記載すること。
- ⑤ 研究計画書に当該研究についてホームページ等で公表し、遺族に拒否機会を与えることを追記すること。
- ⑥ 申請書 3.適用となる指針に誤りがある。当該研究は、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針を選択すること。その他の選択は削除すること。
- ⑦ 申請書 9.研究計画の概要に「解剖学教室の長瀬先生」とあるが、「解剖学教室長瀬教授」に訂正すること。
- ⑧ 申請書 11.人体採取試料・情報に「献体者の資料」とある。「試料」に訂正すること。また、「完全に破棄する」具体的な方法を追記すること。

(5) 申請番号 H29-039 (新規) 研究責任者：渡邊 格 任期制助教 (耳鼻咽喉科学)

説明者：宮本 真 臨床専攻医/大学院生 (耳鼻咽喉科)

「気管カニューレ装着患者の発声・嚥下機能に関する検討」

委員長は、審議に先立ち研究責任者に当該研究の概要説明を求めた。概要説明を踏まえ倫理的観点及び科学的観点から討議を行った結果、変更の勧告 (修正した上で再審査)とする。

《変更勧告》勧告に従い申請書類を修正し提出すること。委員長確認の後再審査とする。

- ① 当該研究の医学的 (臨床的) 意義が不明である。研究代表者及び研究責任者と研究内容について再度検討すること。
- ② 研究計画書 4.対象の適格基準「発声障害および嚥下障害を認める患者」とある。除外基準に該当するため訂正すること。
- ③ 研究計画書 7.治療計画とあるが、治療として確立したものでないのであれば見出しを訂正すること。
- ④ 研究計画書 8.予想される有害事象に「誤嚥性肺炎を生じる可能性が少なからず生じる可能性がある」とあるので、訂正すること。また、誤嚥性肺炎を生じる可能性があるのであればリスクがある研究と判断できるので、モニタリング・監査の必要がある。研究計画書 15.を訂正すること。
- ⑤ 研究計画書 14.予定参加数および統計学的事項に「10 症例」として記載がない。10 症例必要と設定した理由・根拠を追記すること。
- ⑥ 申請書 10.目標症例数・研究対象等にも設定根拠として上記⑤と同様に 10 症例必要と設定した理由・根拠を記載すること。

(6) 申請番号 H29-042 (新規) 研究責任者：天野 カオリ 講師 (解剖学)

「ヒト浅層筋腱膜システムと下層構造における形態学的観察 一部位による組織構造の違いと加齢による顔面形態変化との関連性について」

本研究は、解剖体を用いた研究である。委員長は、審議に先立ち研究責任者に当該研究の概要説明を求めた。概要説明を踏まえ倫理的観点及び科学的観点から討議を行った結果、条件付承認

とする。

《条件》申請書類を修正し提出すること。委員長確認の後承認とする。

- ① 研究計画書③研究の目的及び意義に「SMAS といわれるこの構造に関する報告はこれまで形成外科領域が大部分を占めており形態学的観察報告が少ない」、⑥研究の科学的合理性の根拠に「臨床領域では顔面部の浅層筋腱膜システムの存在が確立されており、その構造を応用した施術が行われている。しかし解剖学領域では未だこの浅層筋腱膜システムの定義は未だ確立されておらず」に記載があるが、整理し具体的に詳しく記載すること。また、「未だ」が2回使用されている。1つを削除し整理すること。
- ② 研究計画書に「Superficial musculoaponeurotic system (SMAS)」と3回でてくるが、略語は初回使用時に正式名の後ろに括弧書きで表記が必要となるが、以降の正式名は省略し略語のみの表記で構わない。
- ③ 研究計画書3頁の「主として観察にはSEMを使用する」について、SEMの正式名を記載すること。
- ④ 研究計画書④研究方法及び期間に記載された研究の方法が分かりにくい。整理して、具体的かつ簡潔に分かりやすく修正すること。また、ここに症例数とその設定根拠を追記すること。
- ⑤ 研究計画書⑤研究対象者の選定方針に「よって比較対象となる若年～中高年層のデータに関しては既存データや文献等を参考とし研究を進行する。」とあるが、データがないのであればここには記載不要である。研究背景等に記載すること。
- ⑥ 申請書 21.照会先として記載しているメールアドレスは、@以降のドメインも記載すること。

(7) 申請番号 H29-041 (新規) 研究責任者：東原 英二 特任教授 (遺伝性腎疾患研究講座)

説明者：奴田原 紀久雄 教授 (泌尿器科学)

「常染色体優性多発性嚢胞腎患者に対するトルバプタン投与前後比較による治療効果の検討：延長試験」

委員長は、審議に先立ち研究責任者に当該研究の概要説明を求めた。概要説明を踏まえ倫理的観点及び科学的観点から討議を行った結果、**条件付承認**とする。

《条件》申請書類を修正し提出すること。委員長確認の後承認とする。

- ① 当該研究の背景、目的、通常の治療方法を追記すること。
- ② 長期間服用した場合の有害事象等の記載がない。研究計画書に、3年間服用したデータと、その後2年間服用を延長した場合に予想されるリスクがあれば追記すること。
- ③ 患者説明文書4頁の表【通常診療と研究関連検査項目とその頻度】で試験関連の検査項目名で「・」位置に誤りがある。訂正すること。
- ④ 患者説明文書6.予想される利益と不利益の1)に「有益な情報をもたらす可能性は低いと考えられます」とあるが、治療効果があるのであれば、そのことを追記すること。また、2)に「不利益は無いと思います」とあるが、長期間の服用については明らかになっていないので、副作用の可能性が否定できないことを追記すること。

(8) 申請番号 H29-040 (新規) 研究責任者: 本間 元康 任期制助教 (細胞生理学)

「神経疾患における磁気刺激を用いた認知機能に関わる中枢神経機構の解明および認知機能の向上の検討に関する総合的研究」

委員長は、審議に先立ち研究責任者に当該研究の概要説明を求めた。概要説明を踏まえ倫理的観点及び科学的観点から討議を行った結果、変更の勧告 (修正した上で再審査)とする。

《変更勧告》勧告に従い申請書類を修正し提出すること。委員長確認の後再審査とする。

- ① 全体的に研究計画のブラッシュアップが必要である。研究計画を設定した根拠にバラツキが見受けられる。当該研究の背景、必要性が分からない。具体的な研究方法、目的、目指している成果について分かりやすく追記・修正すること。
- ② 申請書 13.では被験者本人から同意を得るとあるが、研究計画書の選択基準には「代諾者の許可を得る」とある。整合性を図り修正すること。認知症患者を除外する場合は、除外基準に追記すること。
- ③ 申請書及び研究計画書に症例数設定の根拠を記載すること。
- ④ 研究計画書 3.研究の実施場所は、窓口と検査の実施場所について分けて詳しく記載すること。
- ⑤ 研究計画書に健常者募集の方法について追記すること。
- ⑥ 研究計画書及び説明文書には、患者と健常者が行うことを具体的に記載すること。
- ⑦ 患者説明文書 1 頁「はじめに」6 行目「新薬を含む治療法や、お薬の新しい組み合わせが、従来の治療法より安全性や治療の続けやすさ、効果の面で本当にすぐれているかどうかを最終的に評価します」とあるが、薬剤を使用した研究でないので削除すること。
- ⑧ 患者説明文書 6.に記載されている「医師の立ち合いのもと」での磁器刺激や点滴等については研究計画書にも追記すること。
- ⑨ 患者説明文書 14.に記載されている健常者への謝礼、磁気刺激の有無等ランダム化については具体的に記載すること。刺激に対して拒否できることも追記すること。謝礼金額については教室で検討をお願いしたい。
- ⑩ 患者説明文書に、磁気刺激による被験者の利益「認知が低下することが予想される」や刺激によって予想されるリスクがある場合にはその不利益も記載すること。

## 2. 報告

(1) 迅速審査により承認された新規申請課題 5 件について報告され、倫理的観点及び科学的観点からも妥当であると承認された。

No	申請番号	申請者	所属	職名	研究課題
1	H29-021	樽井 武彦	救急医学	教授	集中治療室における敗血症診断
2	H29-023	横山 琢磨	内科学 (I)	学内講師	EGFR 遺伝子変異陽性再発・進行非小細胞肺癌患者における末梢血のエクソソーム中の各種分子を用いたアファチニブのバイオマーカー同定および耐性機序解明に関する多施設共同前向き観察研究
3	H29-027	厚東 隆志	眼科学	講師	糖尿病黄斑浮腫患者に対する治療実態の疫学調査
4	H29-028	大西 宏明	臨床検査医学	教授	Mycobacterium Kyorinense (杏林菌) に関する疫学調査
5	H29-029	山崎 聡子	臨床検査医学	助教 (任)	血糖用採血管における採血後の混和方法の経時的血糖値変化についての検討

(2) 迅速審査により審査された研究計画等の変更申請課題 13 件について、軽微な変更と認め承認された。

No	申請番号	申請者	所属	職名	研究課題
1	H27-017-02	橋本 佳和	外科学	助教 (任)	院内鏡視下手術認定制度における研修医を対象とした体内結紮実技試験の成績の開示
2	H25-165-04	佐藤 徹	内科学 (II)	教授	呼吸器疾患に伴う肺高血圧症の多施設前向き症例登録研究 (Japan Respiratory PH study)
3	332-06	渡辺 雅人	内科学 (I)	学内講師	感染症患者における血清/血漿炎症マーカーの研究
4	H23-167-05	佐野 秀仁	整形外科	助教	運動解析を用いた頸髄症の巧緻機能評価に関する新しい検査法の開発
5	H25-087-02	長谷川 浩	高齢医学	准教授	心拍変動解析を用いた微小脳血管障害患者の自律神経機能評価とその意義に関する研究
6	H26-101-01	長谷川 浩	高齢医学	准教授	高齢ドライバおよび軽度認知症ドライバにおける安全運転支援の評価方法に関する研究
7	H28-042-01	副島 京子	内科学 (II)	教授	Reveal LINQ レジストリ研究
8	H26-107-02	副島 京子	内科学 (II)	教授	AdaptResponse 試験
9	H28-067-01	金城 真実	泌尿器科	医員	多摩地区における健診、一般医受診者の下部尿路症状の実態調査
10	H28-038-01	皿谷 健	内科学 (I)	講師	厚生労働科学研究委託業務 (難治性疾患実用化研究事業)「びまん性肺疾患に対するエビデンスを構築する新規戦略的研究」特発性肺線維症 (IPF) の進行防止におけるビルフェニドンおよびビルフェニドン+N-アセチルシステイン(NAC)吸入併用療法に関する前向き多施設共同治療研究
11	H27-125-01	杉山 政則	外科学	教授	腸回転解除法および従来法を用いた臍間膜切除による臍頭十二指腸切除術の手術成績の後向き研究
12	H24-144-05	横山 琢磨	内科学 (I)	学内講師	RET 融合遺伝子等の低頻度の遺伝子変化陽性肺癌の臨床病理学的、分子生物学的特徴を明らかにするための前向き観察研究
13	H24-141-08	成毛 大輔	内科学 (腫瘍科)	助教 (任)	フッ化ピリミジン系薬剤、プラチナ系薬剤、trastuzumab に不応となった進行・再発 HER2 陽性胃癌・食道胃接合部癌に対する weekly paclitaxel +trastuzumab 併用療法 vs. weekly paclitaxel 療法のランダム化第 II 相試験 (WJOG7112G)

(3) 迅速審査により審査された実施状況報告課題 18 件について、報告・承認された。

No	申請番号	申請者	所属	職名	研究課題
1	H25-079-04	岩科 裕己	形成外科学	助教 (任)	血管腫・血管奇形の病態生理に関する基礎的研究
2	H26-003-03	奴田原 紀久雄	泌尿器科学	教授	多発性嚢胞腎患者における eGFR と mGFR 相関の検討
3	H22-005-04	奴田原 紀久雄	泌尿器科学	教授	わが国の腎臓病患者における腎生検データベース構築ならびに腎臓病総合データベース構築に関する研究 (J-KDR レジストリー研究)
4	H25-157-05	小林 敬明	総合医療学	助教	結腸直腸癌における転移・再発巣での遺伝子変異に関する研究
5	125-12	水川 良子	皮膚科学	准教授	薬疹の遺伝子多型および発症因子の解析
6	H26-157-03	佐藤 俊明	不整脈先進治療学研究講座	特任准教授	本邦における冠動脈疾患を伴う植込み型除細動器植込み症例の実態調査 Actual Conditions and Prognosis of Coronary Artery Disease Patients with Implantable Defibrillator Therapy in Japan -Japan Implantable Devices in Coronary Artery Disease Study (JID-CAD)
7	H25-013-05	伊藤 有美	保健学部看護学科成人看護学研究室	講師	人工呼吸管理中の患者の疼痛評価に影響する要因についての検討

8	H24-081-02	松岡 弘芳	外科学	准教授	治癒切除不能進行大腸癌に対する原発巣切除の意義に関するランダム化比較試験 (JCOG1007)
9	H27-178-02	松岡 弘芳	外科学	准教授	多施設共同ランダム化比較試験に参加した Stage II/III 進行大腸癌患者を対象とした予後予測および術後補助療法の適正化を目的とした大規模バイオマーカー研究 (JCOG1506A1)
10	H25-045-04	松岡 弘芳	外科学	准教授	結腸癌の至適切離腸管長に関する前向き研究
11	H25-107-06	松岡 弘芳	外科学	准教授	再発危険因子を有する Stage II 大腸癌に対する UFT/LV 療法の臨床的有用性に関する研究
12	H27-073-01	松岡 弘芳	外科学	准教授	大腸癌腹膜播種の客観的評価方法に関する多施設共同前向き観察研究
13	H22-112-06	高山 信之	内科学 (II)	教授	成人 T 細胞白血病・リンパ腫に対する同種造血幹細胞移植療法を組み込んだ治療法に関する非ランダム化検証的試験 (JCOG0907)
14	H26-134-02	高山 信之	内科学 (II)	教授	成人 Burkitt 白血病に対する多剤併用化学療法による第 II 相臨床試験 (JALSG Burkitt-ALL213)
15	H27-164-01	高山 信之	内科学 (II)	教授	Interim PET に基づく初発進行期ホジキンリンパ腫に対する ABVD 療法および ABVD/増量 BEACOPP 療法の非ランダム化検証的試験 (JCOG1305) 附随研究: JCOG-バイオバンク・ジャパン連携バイオバンク
16	H27-189-01	高山 信之	内科学 (II)	教授	成人急性リンパ芽球性白血病におけるトランスクリプトーム解析 (JALSG ALL2020-EWS)
17	H28-031-01	高山 信之	内科学 (II)	教授	タクロリムス単独の免疫抑制による骨髄破壊的臍帯血移植の治療成績に関する後方視的研究
18	H28-092-01	高山 信之	内科学 (II)	教授	脾臓に発生した悪性リンパ腫に関する病態解明及び疾患概念の検討を行う研究

(4) 安全性情報に関する報告 1 件について、報告された。

No	申請番号	申請者	所属	職名	研究課題
1	H25-103-10	谷合 誠一	内科学 (II)	学内講師	慢性冠動脈疾患患者におけるイコサペント酸エチルの二次予防効果の検討 Randomized trial for Evaluation in Secondary Prevention Efficacy of Combination Therapy Statin and Eicosapentaenoic Acid

(5) 研究計画の取り下げ 1 件の報告があり、承認された。

No	申請番号	研究代表者	所属	職名	研究課題
1	H28-153-01	山崎 聡子	臨床検査医学	助教 (任)	血糖用採血管における採血後の混和方法の経時的血糖値変化についての検討

### 3. その他

(1) 審査件数の上限について

委員長は、医学部倫理委員会での審査件数を次年度から上限 5 件としたいと述べ、周知のため 9 月の教授会等で報告したいと説明し、承認された。

(2) 審査手数料について

委員長は事務局から審査手数料についての検討をお願いしたいと提案があったと述べた。

事務局は、他大学において審査手数料を徴収し倫理審査を行い、徴収した費用は倫理委員会の管理費用等に充当している大学がある旨説明した。また、現在医学系大学倫理委員会連絡会議加

盟校において審査手数料のアンケート調査を実施しているため結果が公表され次第、改めてご検討を頂きたいとお願いした。

委員長は他大学の傾向を確認した上で今後検討をしていきたいと述べた。

(3) 解剖体を用いた研究について

解剖学松村教授は資料3に基づき、日本解剖学会「解剖体を用いた研究についての考え方実施に関するガイドライン」において、屍体および屍体から得た標本を用いて行う研究について各機関（大学）の倫理委員会で審査・認証を得ることが求められ、その倫理審査にあたっては、当該研究について公示すること、献体者および遺族の拒否機会を確保すること、この2点が最低限必要な確認要件となっている。このことを踏まえて、2件の審査案件について倫理審査をお願いしたいと説明した。

解剖学長瀬教授は資料3-10研究倫理審査申請書（様式第1号）について、新指針に沿って解剖体を用いる研究を申請する場合の案を作成したとの確認をお願いしたいと述べた。

今後は、解剖体を用いた研究の場合には、平成26年度まで審査を担当していた解剖倫理審査小委員会に迅速審査を委嘱し、審査結果を倫理委員会に報告することで承認された。

以上

次回医学部倫理委員会 平成29年 9月11日（月）13時00分